

重点目標	評価項目	具体的な実践項目	評定		学校の自己評価と改善策	関係者評定	学校関係者評価委員会コメント
			令和2年度	令和3年度			
豊かな人間性・社会性の育成 ①	1 「あたり前のこと3か条」(あいさつ・返事・整理整頓)を徹底する。	・生徒指導週間・委員会活動による点検活動(毎週火曜日にぞうきん、履き物) ・キャプテン会、生活委員会を中心に、「あたりまえのこと三か条」の呼びかけ・仕掛け	児童生徒【3.4】 保護者【3.4】 教員【3.6】	児童生徒【3.5】 保護者【3.3】 教員【3.5】	① 生活運営委員会を中心に週に一度ぞうきんを並べる意識付けを行うことができています。 ② 生徒会役員を中心に週に2回あいさつの日を設定し、あいさつが習慣化してきた。また、あいさつの質を高めるために小中であいさつの模範者を褒め合う活動も実施している。 ② 無言で時間いっぱい清掃に取り組むことができています。 ③ 毎月のアンケートの結果をもとに効果的に教育相談を行うことができています。Q-Uの結果を活用して子どもたちへの手立てを工夫することもできた。 ④ 週に一度の道徳の授業はもちろんのこと、教育活動全体を通して児童生徒の人権意識の高揚に努めることができた。	3. 6	○ 直接説明を聞いていないので、評定が難しいが、各項目とも実践できたものと評定した。 ○ ③については、今後とも積極的にQ-Uの結果を分析して、個々の児童生徒の悩みの解決を図ってもらいたい。 ○ これまでの取組と工夫で良い結果が出ていると思う。今後も継続できることを期待する。 ○ 地区によって差は見られるが、児童生徒ともに良くあいさつしている。 ○ 地区行事(空き缶拾い)にも積極的に参加している。 ○ 全体的に児童生徒の豊かな心情を感じる。
	2 時間いっぱい清掃する児童生徒を育成する。	・清掃指導週間の設定による、清掃活動の充実					
	3 教育相談アンケートやQ-U等を効果的に活用する。	・毎月のアンケート、Q-Uの結果をもとにCSSTを実施					
	4 道徳教育や人権教育を充実する。	・週1回の道徳の授業、朝の会、帰りの会などを活用した児童生徒の人権意識の高揚	指標【3.4】				
確かな学力の定着と向上 ②	1 学習訓練等を徹底する。	・立腰、「学習の約束」の共通理解と実施 ・毎時間の号令、指導の徹底 ・学習委員会による指導週間の設定と評価	児童生徒【3.2】 保護者【2.7】 教員【3.0】	児童生徒【3.0】 保護者【2.6】 教員【3.4】	① 「学習の約束」の共通理解を行い、学習訓練の徹底を図ってきた。小・中学校で学習指導週間と同じ週に設定し、年回5回のチェックをすることで、児童生徒の学習に対する姿勢や準備等の習慣化を図ることができた。 ② コグトレやがんばる検定、各教科でのコンテストなど、朝自習の時間の計画的な活用を図ってきた。また、児童生徒が興味関心をもつような導入や資料の提示、授業終末の習熟の時間の設定など、日々の授業の改善に努め、公開授業等で個に応じた支援の効果を確認し合う場にした。今後は、4つのチェックポイントを意識した授業ができるように教材研究を行い、児童生徒の基礎学力の定着を図っていききたい。 ③ 業間やすき間の時間を利用した読書活動を推進してきた。学校図書館利用も啓発し、本に手が届く環境を作ってきた。今後は家庭での読書推進を保護者にも啓発し、連携して取り組んでいきたい。 ④ 学力調査や諸テストの分析等を行い、指導に生かしてきた。また、主題研究による一人1回の公開授業をすることで、教え合いや学び合い、指導方法の改善へとつながった。小中合同教科部会において系統的・継続的に取り組める活動を話し合い、授業で実施することができた。 ⑤ 新聞投稿を推進してきた。作文や絵画、俳句・短歌等の投稿コーナーの紹介も行った。書く楽しさを感じるように日記指導や作文指導を行ってきた。これからも、行事等での作文や日々の出来事をつづる日記等を家庭学習に加えたり書く活動の授業を充実させたりして、作品投稿を進めていきたい。	3. 4	○ 学力向上は保護者が最も求める課題であり、保護者の評定が低くなるのは、「さらに、もっと」という期待があるからと考えられる。今回学校の評価と家庭で評価に差があるので、更に一層家庭学習への取組の協力を保護者へ呼びかける必要があると考える。 ○ 中学生になると「予習」の習慣が大切と考えるので、重ねて家庭への呼びかけが必要と考える。 ○ 保護者の評定が低いことが気になる。コロナのために難しいと思うが、学校と保護者が情報交換を通して思いを共有できる機会があると良いと思う。 ○ 学校側の取組をもっと保護者に伝えることが大切だと思う。 ○ 新聞投稿が増えてきて、作品を見つけることが楽しみだ。今後も続けてほしい。 ○ コロナ禍で行事が少ない状況であるが、八十八カ所巡りや、ふれあいウォークラリーなどを通して、児童生徒が学習に対して真剣に取り組む姿勢を感じた。
	2 基礎学力の定着を図る。 ・日常授業の改善 ・コグトレやがんばる検定、各教科コンテストを実施する。	・年間指導計画通りに教材研究をしっかりと行った授業を実施 ・毎日の朝自習の時間を計画的に運用してコグトレや、がんばる検定を実施					
	3 1日10分読書を推進する。	・業間及びすきま時間の積極的な活用及び家庭読書の啓発 ・図書計画的な購入					
	4 実力テストや学力調査を分析し、指導方法を工夫改善する。	・全国学力調査、県及び市の学力調査等の結果の分析と指導 ・主題研究における授業研究会の実施 ・公開授業の実施(全職員1回実施) ・小中合同教科部会の実施					
	5 新聞投稿を推進する。	・学期毎に取り組みの紹介 ・作品投稿	指標【2.9】				

※コグトレ…コグニティブトレーニングの略(認知機能の強化トレーニング)
 ※4つのチェックポイント…宮崎県教育委員会が示す4つの授業改善ポイント
 ※Q-U検査…Questionnaire-Utilities(楽しい学校生活を送るためのアンケート)

重点目標	評価項目		具体的な実践項目		評定		学校の自己評価と改善策	関係者評定	学校関係者評価委員会コメント
					令和2年度	令和3年度			
体力向上と健康教育の推進	1	体力向上プランに沿って計画的・継続的に取り組み、体力テストを分析する。	・みのっ子ウォーミングアップの見直し ・体力テストの結果を基にした全国・県平均を下回る運動項目の重点指導	児童生徒【3.7】 保護者【3.3】 教員【3.4】	児童生徒【3.5】 保護者【3.0】 教員【3.4】	指標【3.4】	① 体力テストの結果を分析し、体力向上プランを作成した。授業前のウォーミングアップや補強運動を各学年の課題に応じたメニューを取り入れた。その結果、中学部が令和3年度宮崎県体力づくり優良校に選ばれた。 ② コロナ感染症対策のための職員の呼びかけや見届けで、昼休みは密を避けながら遊ぶ児童生徒も多くいた。 ③ 毎時間の始業時の姿勢指導は、各学年でしっかりと取り組むことができた。中学部では学習委員会を中心に、呼びかけを行ったり学習態度徹底週間を活用したりし、立腰の徹底を意識させることができた。 ④ 自力登校を指導・支援した結果、特に中学生は自転車等での自力登校が多くなった。今後も推奨していきたい。体力テストの結果での落ち込みが大きいのは走種目なので、毎日の自力登校で筋力や持久力の向上を図ることの大切さも指導していきたい。中学部では、保体委員会の取組として、メディアコントロールについてのアンケートや呼びかけを行った。 ⑤ 道徳や学級活動等で、「命」についての授業を実施し、友達との関わりの中で、友達に対する言葉遣いや態度などを含め、思いやりのある児童生徒が増えてきた。 ⑥ 定期的に安全点検を実施し、早めに修繕し、児童生徒の安全を確保することができた。 ⑦ 栄養教諭による食育を全学年で行った。また、毎日の給食指導で黙食等の指導を継続して行っている。給食での残食も少なくなっており、弁当の日も3月に実施予定である。	3.6	○ 県の体力づくり優良校に選ばれたことは大変喜ばしい。また、他の項目においても成果が上がっていることが伺えるので、今後も継続して取り組んでほしい。 ○ 体力づくりと、きちんと食べることは学力向上の基本であり、感染症対策にもつながると思う。活動制限もあり大変なことも多いと思うが、体力向上の取組を今まで以上にお願したい。 ○ 中学生の自転車登下校がきちんと出来ていると思う。歩道の通行者にも気をつけて安全に運転している。 ○ あいさつ運動で立っている時に、遠い道のりを歩いてきたり自転車通学をしていたりする姿を見て、児童生徒の体力がついてきていると感じた。
	2	外遊びを推奨する。	・委員会の児童・生徒による呼びかけ ・体育館使用の見直し						
	3	立腰指導を徹底する。	・学習の始めと終わりの立腰の徹底						
	4	基本的な生活習慣を育成する。	・自力登校の推進 ・メディアコントロール月間の活用						
	5	命を大切にすることを充実する。	・道徳科、学級活動の充実 ・命を大切にすることを週間における啓発授業の実施						
	6	安全点検を実施する。	・月1回、安全点検を行い計画的な修繕を実施						
	7	食育を充実する。	・弁当の日の実施						
家庭や地域に信頼される学校づくり	1	一貫校の良さを生かした教育の推進（教科担任制や乗り入れ授業の実施）	・小、中合同の教科部会の実施 ・小・中学部それぞれの学力検査分析の合同実施による共通実践	児童生徒【3.6】 保護者【3.2】 教員【3.3】	児童生徒【2.9】 保護者【3.0】 教員【3.4】	指標【3.3】	① 小中一貫校の良さを活かすため、これまで取り組んでいた中学部の音楽教師による小4～6年の音楽に加え、小5～6年の体育を中学部の体育教師が、小6年の理科を中学部の理科教師が専科として指導することを試みた。専門性の高い指導を受けることができて、児童が生き生きと学習に取り組む姿が見られた。 ② すこやか・サポート委員会（SS委員会）を毎月実施して、指導上配慮すべき児童生徒への共通理解を図り共通実践を行うことができた。また、学期1回小中合同のSS委員会では、全職員で本校の児童生徒への理解を深めることができた。 ③ コロナ対策のため、地域との交流が制限されて、通常の実践のほとんどができなかった。今後、コロナ渦の中で関わることを考える方法を考えていきたい。 ④ 学校での出来事は定期的にホームページ上で紹介したり、保護者への連絡は安心安全メールを使ってお知らせしたり情報発信に努めてきた。	3	○ ①については効果があるようなので、さらに教科を増やして実施してほしい。 ○ ③については、やむを得ない状況であり（怠っていたとは言えず）評価できない所である。 ○ コロナ禍における教育課程の時間確保のための地域連携について、今後工夫していく必要がある。
	2	特別支援教育の充実（関係機関等との連携）	・小中合同のSS委員会の実施 ・特別支援教育アドバイザーやエリアコーディネーターとの連携						
	3	PTA活動、三納地域づくり協議会、三納地区民生委員児童委員協議会等との連携	・学校行事での地域人材・素材の活用 ・地域行事への参加・協力						
	4	学校ホームページ等を活用した情報発信	・学校からのお知らせ、ホームページの充実 ・安心安全メールの活用						